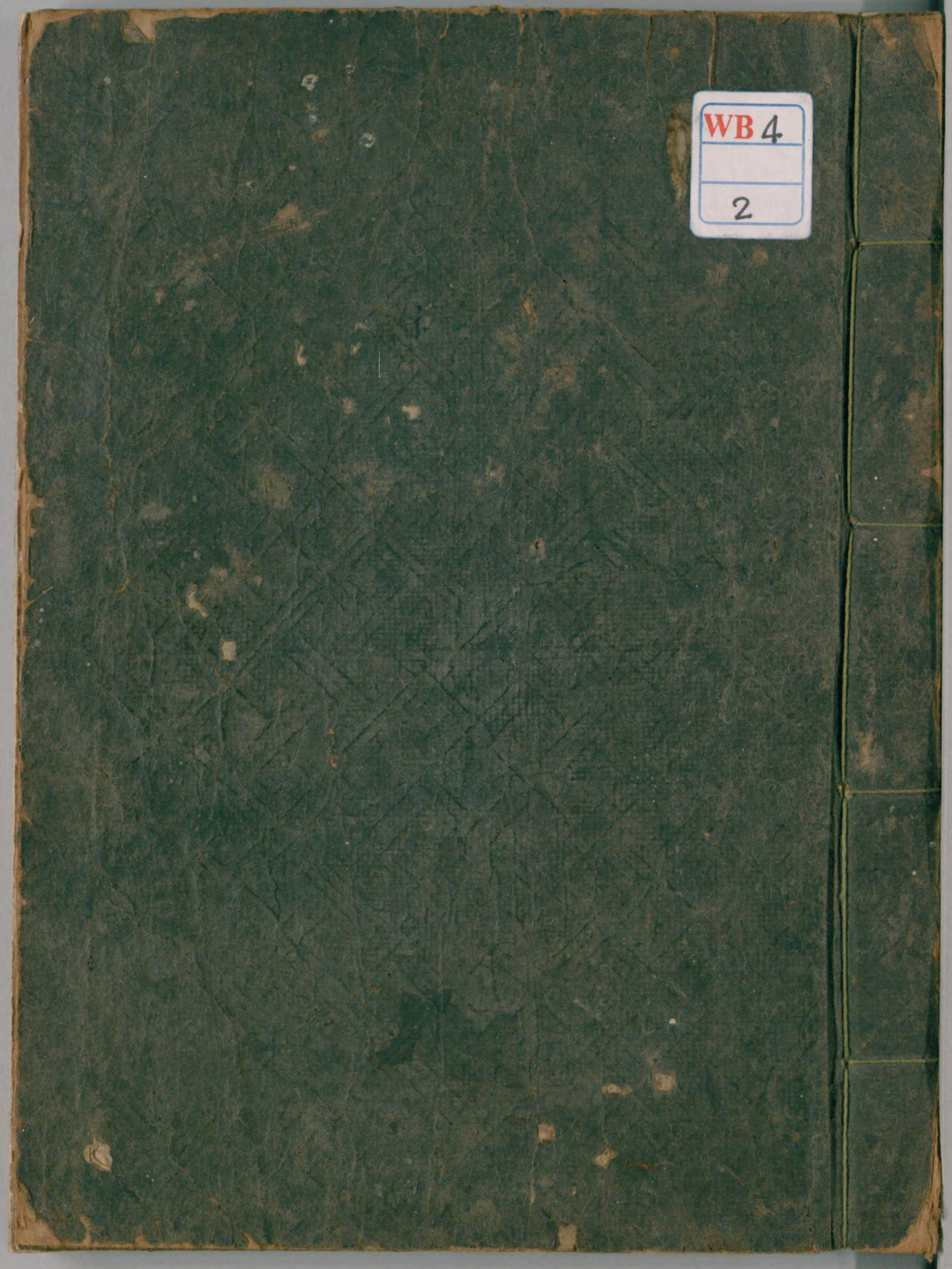
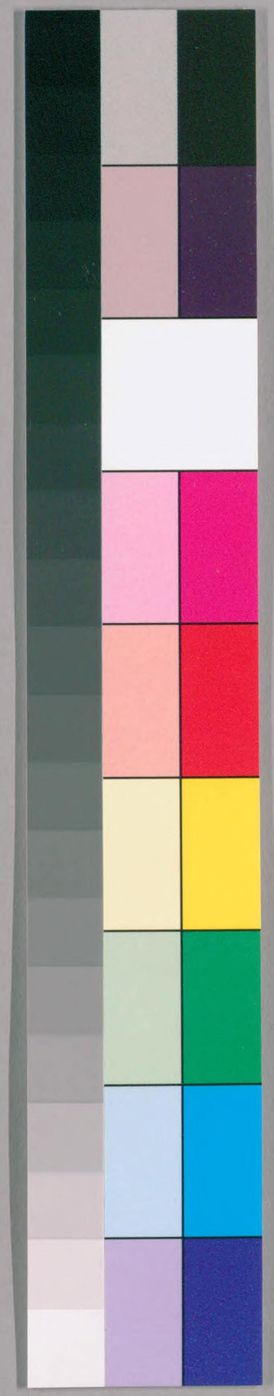




国立国会図書館　　タイトル『弥撒拝礼式』　請求記号 WB4-2

ガラス使用

彌撒拜禮式

全

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2

ガラス使用

WB4
2

國立國會圖書館

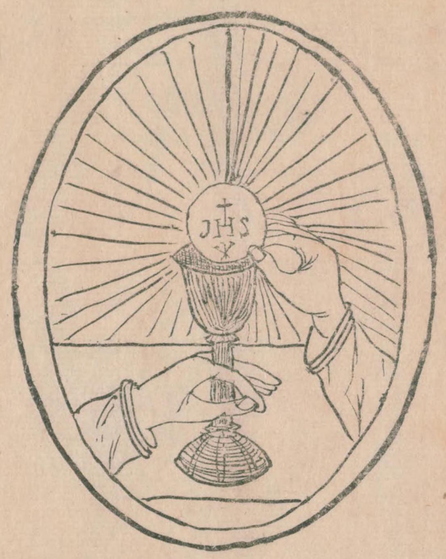
彌撒拜禮式

御出世以來一千捌百陸拾致年
明治二己巳仲夏新鐫

日本 司教
伯爾納鐸 准

書 55.2.-8 国会図

80W04382



OMNIS HONOR ET GLORIA!!!

やりろごてゑるのほすみれ

国立国会図書館　タイトル『弥撒拜礼式』 請求記号 WB4-2

ガラス使用

VICARIATUS APOSTOLICUS IN IAPONIA

淨世救來千八百六十九年

彌撒拜禮式

淨水を拜む心得の大意

淨水を洒ぐ

きりーたんもやとるに歸りてハ皆一ごとに淨を
天主の淨恩沢をうけたてまつりて淨堂門邊ひを
なるべくとゝなす　況バ日曜当よりて世界
殘らず光をうけるゞごとく〳〵今淨堂にある程の
ものハ男女老少ひとり殘らず淨親天主をおがみ奉りて
其御事叶ひ給ふ淨恩を以我覺悟の淚泉に遍ひ

国立国会図書館　タイトル『弥撒拜礼式』 請求記号 WB4-2

ガラス使用

まづに御恩をこゝむりたてまつるなり（その霊妙なる御寵かゝ儀ハ細かに祈書に載たれバいまこのよに書にハ只その概略を拝みまする時の礼貌のあらまーを記すのこ拙き肉眼にハ見ゆるもの叶とぞれども香煙のたゆにハあまるの徳天降り給ふなれバ御身を拝みまつるべき尊ハどみにかいそひ日いつにハ及ぎず平日も早く起きて洗ひ口漱ぎうがひ清り心を静め敬ひを尽しー拝日を塞さいを

閉ちまをを心ーくしーて聖さ水を頂き席に即ーて聖さ号をいたゞくーおらしーよ

清き聖さ清めを以て身の罪をあらひつくーてんくをとふざけ悪念を除うせ給へあめん

清みさ始まらんとする時皆跪きて祈をさけ敬ひさんたくるすの御子をなんぢ神父ハかりすを香煙の心面に載せ恵み救ひ退きたり給へ　此義ハ清みさい限なき聖さ清浄なれバこれを以ておこなふべき徳義にお尚らざるところを祈るーー

且おごむもの〳〵心を治め悔ひ改めむるがため之れに依て
此時ハ致ひをもつて我罪科の赦を持ながら今ここの
聖さ大祭にあうり神父に比ぶれバいの祷か恐き
あることゝおもひて心をつゞさおゝよを唱へるにハ

△いかに廣大無邊の御慈悲ある御親天帝ゆるし
給へ御独の御子ハ我等罪人を御救ひ給ふんがため
十字架にかゝり揚げ給ひたる尊大の御まつりを
さんたるさりふゝやゝ中にハ毎日續けたるよて
我等のわを悔ひ改めらるゝ御ハ此上の美妙

なる御ちからを以て御罪科を赦し給ふ御ハ
○神父さんたるすの御声をきゝ
まつりごさんと二位一体の
是ハ天地万物あらざるあら始め終りより
なき御一体の天主のみ主にして三位を含み
御善徳にて御満ち給ひ万福の智を以て

なきところ　そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きよりて使とこの所有ものを
また　つくり
又まくのおん計らひをもて在ます
おがむものは心を一致して天主我等のために
まづ世界萬物を作り給へて我
その大恩を考へ　ありがたき心を起し
くるすの御下をなして△ぱてるひりよすひりと
きんとこ御名を以てふめんと唱へまつり
○神父　祈のおらしよを唱へ終
原罪　おのれ　犯せる罪ある故に深き後悔なく

そのほかあらゆる
安きより

天主の深き洋計ついなれバ我等今の時に生れ出
その御恩を報るのを浮さ世ばかりの道に
導きの事を願ひ奉る〳〵爰へ跪ひ
罪科をかなしみ涙をそゝぎ
〇神父香臺の正面に就て
九遍唱へのち　此詞ハ涙を我等を憐みたまへと
ふかくして昔の聖人達世間の罪科望さが故よ
御助をまく〳〵天降て救ひのへとこゝ位に匂ひ一位
毎に三遍宛御心を拝むものも各我罪科を

かなしみて洋赦免をこひ奉
天主ぱてるにいるれにかを編ひ洋また若干叶ひたまへ
天主ひりよにいる我に智恵多分を編ひ洋智恵限りなき
深なるまひりよさんとにいるれに洋大切頼奉
心を記させのへとく心箇を以て△我等ら洋
これら罪人を憐み給へとこ三遍となるべし
〇神父ハ面を冥さごろりやえくと唱へのち
皆ハ洋主洋誕生ふ夜洋あんじよう奉中
より唱ひ終ふ頃の歌の棹にて上の天主ハ業苑

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

ぱんふくしたの老人い安堵和楽という事こと拝むもの
しかいかあんどようすこと心を合せ久〳〵祷み〳〵
御扶助て浄く清生あるにより て罪を洗ひて冥
加を失ざる様に励むんを那〳〵ごろりやのむら
〳〵よをとなへるにハ△いかに天主ハ久代八千代さゞれ
石と苔むすともかゝる尊き福徳を
めでたかりきまゝ身に差と有難き独の
身ぜずすさり〳〵と我為のみにあらず
せかいを憐みの御為に罪科をのが
為ハ労るぶにも謝するにも

なを料理りあるかぎり〳〵いつまでも天主父とすひ
かとくさんとく尊さ〳〵ゆさ〳〵祝〳〵奉ふあめん但神父唱へざる時ハ拝者も唱へず

○神父ハ御手を翳へ〳〵てどみぬすおびすくんこ唱へ
尊い浄き誕生ありて世るに交り浄教を
信へ御ひかりにより て浄き心ハ汝為と共くに在よ
と御言葉辞むるの ハ此時限り浄生を感謝〳〵その
浄恩澤により て清き身〳〵成るやうにこう世るやうにと祈人にも此浄恩を勧へ

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

させ洗足を奉行(ぎょうじ)し畢(おわ)むべくあらば世話人と命(いいつ)べし

○神父香煙(こうえん)のために匙(ひだり)を執(とり)て誕生日(たんじょうび)の

御祝(おんいわい)の文(ぶん)を讀(よみ)あげ畢(おわ)らば洗足(せんそく)誕生(たんじょう)より二十

四日(にちめ)目に洗(あら)わざるべからず此(これ)洗足(せんそく)堂(どう)に

入(いた)り天主父(てるおや)に捧(さ)げ奉(たてまつ)るなり

辞(ことば)む者(もの)那(なに)ごとぞや

ヤソ　仮(これによりて)神父(しんぷ)は洗足(せんそく)の苦像(くぞう)にむかひ

まづ是(これ)あれむすと唱(となえ)なさば(こころ)は元人(しょうじん)と共(とも)に

那(なに)事(ごと)をいふものにて神父(しんぷ)は元人(しょうじん)のために天主(てるおや)に

那(なに)ごとぞや次(つぎ)に会堂(かいどう)に仮(かり)て置(おき)たる

らるゝは我(われら)が自分(じぶん)の功力(くりき)を以(もっ)て那(なに)ごとをも

洗功力(せんくりき)に對(たい)して言(いう)ものなり那(なに)を救(すく)ふことを

ヤソ　御(ご)一体(いったい)なるにて又(また)あほを宥(ゆる)かる〻仮(かり)小児(しょうに)の母(はは)に

向(むか)てほを宥(ゆる)さむる情(じょう)の如(ごと)く洗哀憐(せんあいれん)にあま

ねく那(なに)ごとの功力(くりき)をおよぼすことなり

ヤソ　只洗足(ただせんそく)に止(とどま)るものゝ那(なに)ごとぞや

那(なに)ごとをも以(もっ)て那(なに)ごとをも救(すく)ふべくすればこそ

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』　請求記号 WB4-2
ガラス使用

あるハ是迄我が為に清にならざるべきが
許し給ふべしと願ふべし
○あゝ主よ〳〵のこゝに望をおん方清使生命より
も日月に清潔ハ清按に倍せて天主父に捧げ奉ふこ
何卒我も清按を守り天主の台前に捧げ奉る
ことを得さすへあめん
○神父ハ聖経の上を極で一章読誦し終ふ
是いすきりすの聖人達清き生涯清潔の事美清在
世中の清汚汚をあらかじめ書記し置ふこと記録と

附合せ一つとよさんどわんばぷちすたに
先達而皆を出人〳〵に後悔しそのみちを示し清世を
また清むるあとに拝む若いときに誤りて天主を
背むがための清り御もあらば
清主の清下りを待ち申すべし　堅く
その来臨あるべきにそなへ掃除し　座敷を
綺るがごとく清や清主のご来臨ハ称家を致
もるめきのごとくにて思ひがけ清ときに
あゝ主よ〳〵いのに清をあんみ給ハざらんこと

給ふるところの人類いまだ汚れざるなり
ぱぷちすまゝ御洗恩をあふむき奉り
さんぐらんぢぷちすたを以後悔改のこゝろを以て
御ぢかの御来りをまち奉らせ玉へ今我眼に
御ゆるを載さ奉るの内にかゝる上は
がうさを以我のあにまを照し玉へよ
御教の隆々を保たせ給へ
○聖経を奉唱して神父讀誦し給ふ
この聖経は福音と譯し御言
御在世中の御言行をば聖さんと
まこと聖ども我日御みさにおいてその一篇宛を
なり此の規式八則あり皆深き義をの含むる
大そう尭たのもの
第一聖経を右に移すこと
じものでいまだ主にたゝくてはゞめより
御ぜさくの後に天主の御教を始めより傳へ
傳へに御言行出世あり御教
その真の御志を

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

うーないし故に香壇の右を自余の法國に像りて
主聖経を右に移すなり
第二 神父香壇の正面にて多を座めて拝礼
ーよめんー
ーたつとー
ーうつー
ーうげんー
ーぐうまつー
ーこうりょくー
ーねがひたてまつるー
ーはいちょうー
ーねむー
ーたとー
ーおよびてー
ーおこなはるるがごとくー
ーしたがつてー
ーはいれいー
ーかたどりてー
ーかがめてー
ーじょうー
ーたつとー
ーぐうまつー
ーこうりょくー
ーねがひたてまつるー
ーはいちょうー
ーねむー
ーたとー
ーおよびてー
ーおこなはるるがごとくー
ーしたがつてー

ここを特縁せざるその外を聖経のごとくに二度香を
ーとくよう
ーせいけいー
ーこうべー
ーこつのごとくなりー
ーこうー
ーさげるるのごとくー
ーいちどづつー
ーこれなりー
ーしゅくー
ーこのみー
ーかをりー
ーめいこうー
ーうけたもつー
ーしたがつてー
ーまたこのこうきー
ーつねー
ーこれー
ーのーるー
ーはなれー
ーこころー
ーあがー
ーむかー
ーほかー
ーかなー
ーうへー
ーのぼー
ーせいらうにざー
ーさげるるー
ーこれー
ーこころー
ーはなれー
ーのーるー
ーつねー
ーまたこのこうきー
ーしたがつてー
ーうけたもつー
ーこのみー
ーかをりー
ーめいこう

IHS

給る光ありきの八本給良能の光ニ引てハ
がくさく光こえ経文を収て外ハ耳目を照
内八こゝろをてらすくしくるーなり
第六聖経くニ英額ハ胸の三昧にさんたくる
すく文を結ぶの 是八心経文八我るにさんた
くるすを頂ざき更給ひたる浮教なれバ
我ホゐんーるを那ゐ、ろこゝばしーわざ仏祠仕業ともに背くすく
とのーるーこ
第七 漢俗りてハを付ちびたもよみあわ
ゐんーるーこ

本味にうまそでも離れぐうそうを服をく
第八音樂を奏する事ハ
ほせのの〇をそれ一心に天をあがらーむる也
衣八則のうち第八第九
平日にハ是を着く
辞む者ゐくぱてるとを同ぐくさんたくるすの文を
結ぶときの念すべきあらくしよ△いのにぶをハどる
でおをくむこわく浮扶をにてちびぶを信ぐ
まふざるが故に終に是を拝むひ浮教を他国に

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

伝へ給ふなりされば我等が科の多さ故を以て
すてたまひ給ひて永く我心の中にとどまり
給ふのみあめんスペリツサンクトスの
教をぱてるを以て普く弘めさせ給ふが故に
我ホ衆人までも浄恩を蒙るを得涼く謝し
奉り扨浄教を以永遠浄教を守浄奉ること
をゆるし給へあめん
○神父當番の正面に立りはけれどゝおらしよを
唱へたり　是ハ浄教ハ萬國に弘まり隨信の者
日に増多さ況なり拝むべき我等の外教にく
居たるバはてるの聖さ浄教を信せず且又善く勤を
なして都而終なのさ苦しみの中に溺るなんん
ぞを考へて神父と同じく心中にて唱へ給ふごの
あべまりよをぞびべー但ぱてる唱へ給ふ毎
むものにまるくるぜずしてよろー
○神父方を觀てそびみぬすたびすこんと唱へ
給ふ　是ハ浄教を伝ぞる者において浄ぐる者
我等ゝ心中に心すりがくさを按け給ふものを

祝詞の辞にして汚穢
我に依り罪むものハ汝等と倶に主ハ
自今罪に落て汚穢
希くハたてまつるべし

〇神父かりすを冠きあみすちやを捧げ
葡萄の酒を杯に
罪深き人罪を清めそ
へる罪重くみづから
便なし依て天主
ひりよおんみに汝等
汚金言を以て
特霊験を顕し終にみづから
天主に献し
らるるなりされバひかり
汚聖言を通へ
に流し給ひて
汚血と成
のごとくにて

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

たゝ
独り純神なれば人界を
人界隔絶の代りに苦患を
故にゞ
なり独りとゝも一滴の
多いに
清きの人界ハ天主
奉へさせる我
また
あにまいらくもなきと

拝むもの
かなゝみ
のまゝ
ゞさおゝよ
血を以て
なり
ことを
〇神父

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

無名を洗ひ清むるといへども今又ふたゝびこれを洗ひ清めてそのあとに名を合せ悔で改めるしるしとして我罪を洗ひ清めたまへ神父の祷文の終るまでも

りーちやにまを餝るにより而して指ぴまでも洗ひ清めなれば弥むるの別るゝときゆうりーちやを捨つるにあるものにあるたる枠をゆうりーちやを捨つるにあるものにあるたる枠を

おるーいよ△ふのに洗ひをせずすべて照らしてあぱをところの罪を洗ひ清めたまへ

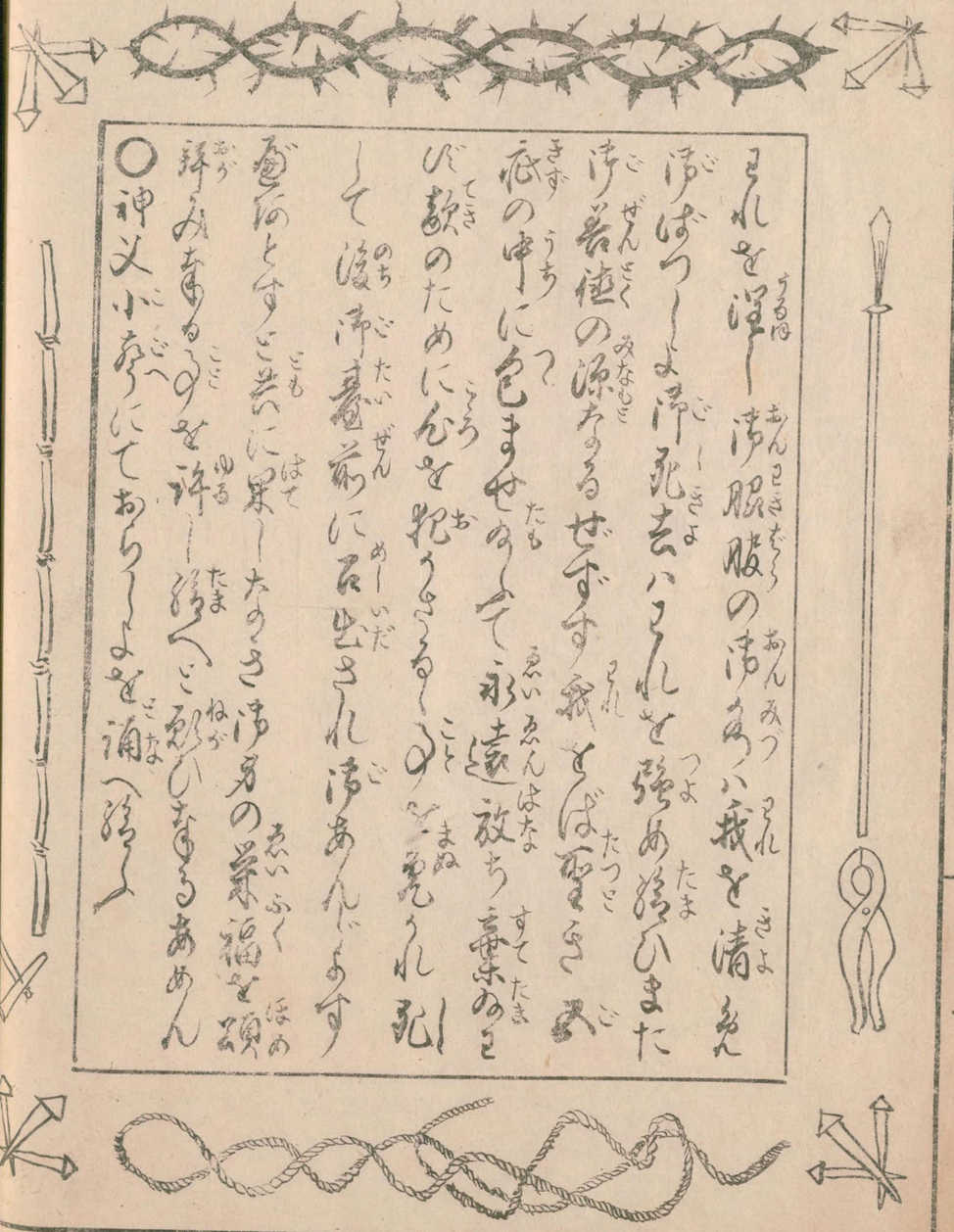
のーべ△ほさ洗功徳を以て我罪科の

よく能濯りを守り洗大切の情を顕し我罪科の

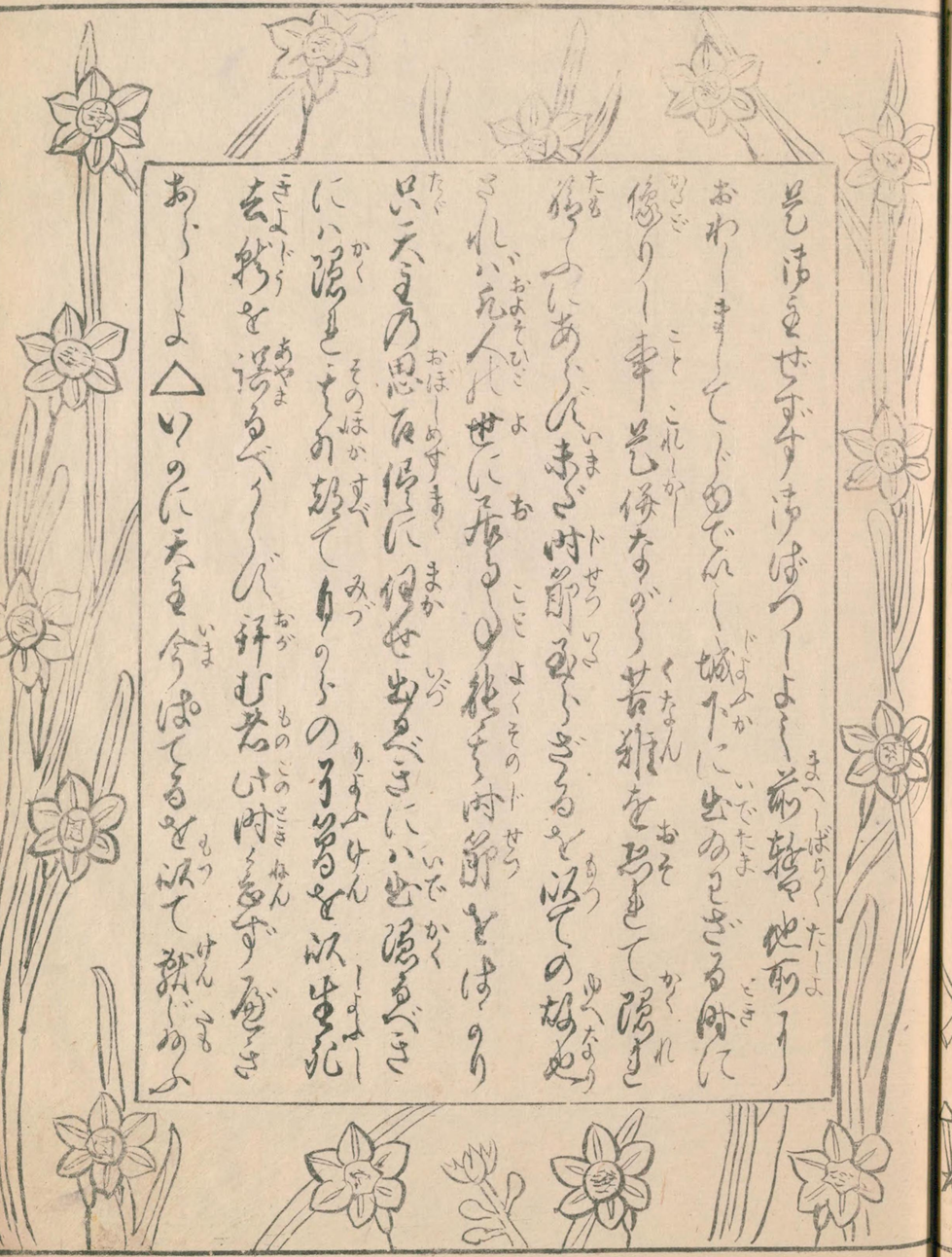
汚まを去あにまを清浄なるあめん又△汝白所ひまを

きりーと洗名の聖さ洗あにまい我にがうさを

ふむせ洗肉躰いうんをあがのなうん落ひ洗無ハ

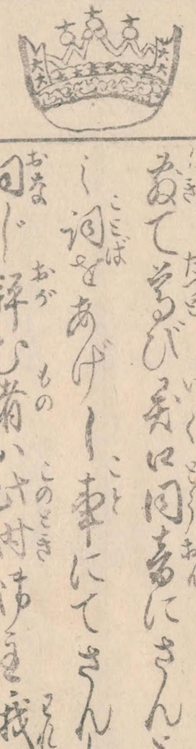


これを淨ー淨服服の淨あつ我を清め
淨ぱつーよ淨乳去ハうれを強め給ひまた
淨善徳の源なるぜずす我そばをさ
疵の中に色ませのーて永遠放ち棄のを
び歎のために心を犯うるーるれ乳
ーて後淨意前にて出されあんぢよす
意のとすど共に果ーたのさ淨男の業福を頌
拜みまるうを許ーー淨ーー
○神父小祭にておらーよを誦へ給ふ



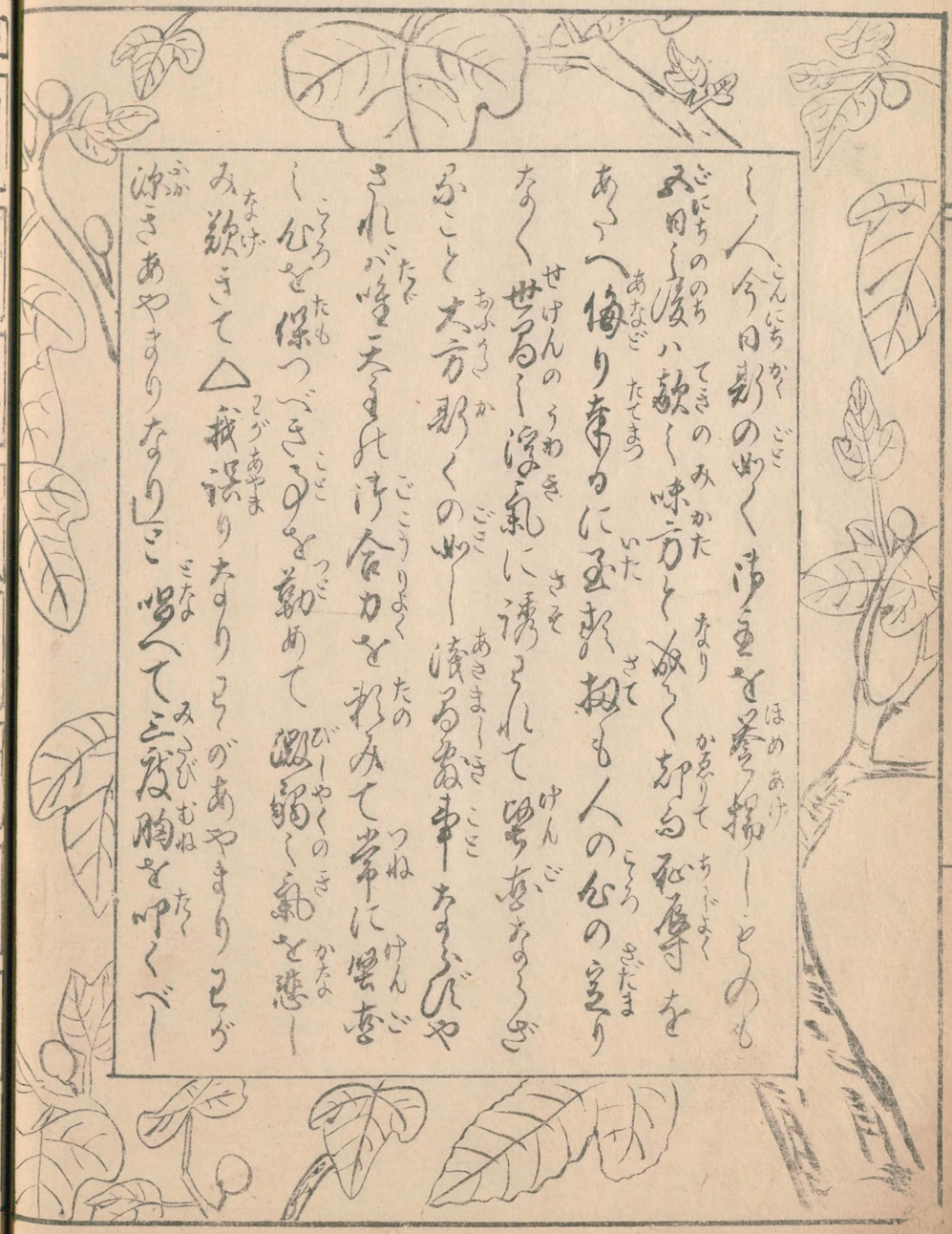
ぎをせずす淨ぱつーよ前勢地形ー
おわーまーてしめでれしー城下に出のとざる時て
像りー事ど侍なのーせ貧雅をおまて淨まと
待つしあーべまざ時節をの
されい兵人れ世に在るもの
只天主の思召に任せ出べさいと淨るべさ
にい淨ととその勿てのの子等を以生乳
去勢を淨るぐーべ拜む若い時ぐ多ずべさ
あーーよ△りのに天を今ぱてるを以て我心の

大きなるもの御礼は御取次
まで遣わすべし
ろざりよを慮にかけ御取次
もらわれてもさんたまりや
ろざりよの御利益を
かぶらんことをあめん
○神父ありを義して誦経ありてさんとすく
さんとすこと　これ誦へ終らざる
きりえと既に御若殿を連
御前へ来るを初て名乗日
本にいるやそ御堂に到
平日御主を信ずるや否
弥むる者もありしかごも



あゝ悲しや其のもかくの
御通りを迎ひまして拝
奉る傍に群集〳〵称く本
あて尊び奉る同音に
し詞をあげ〳〵事にて
同じ拝む者ハ此時
弱に多ひ御恩を
来り給ひ〳〵慎んであん
なるのを顧み恥ずべき
也

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用



一、今日彌撒の始まる時、汝等の心を奮ひ起し、日頃の怠惰の念を去り、謹んで神前に出でよ。

一、汝等ミサ祭の間、人の心の定まりなく、世間の浮雲に誘はれて、空しき事に心を移すこと大方那辺の如くなれば、能く此事を慎みて常に堅固の志を保つべきを勧めて、懈怠の念を悪み、敬虔の心を起すべし。

一、汝等ミサ祭の間、我儘なる心のあやまりなどを悔いて、三度胸を叩くべし。

一、神父無言にて合掌黙念をなす。是当今の教皇を始め本国当国の今上皇帝、並に教傳教師諸の宿願、及父母親族朋友をも、天下の切支丹の為に、能く守護あらせ給へと祈願を籠むるなり。

一、ここにて則ち涙を催すべきなり。前夜等にさりしことを深く悔ひ改むべし。

一、ここにて

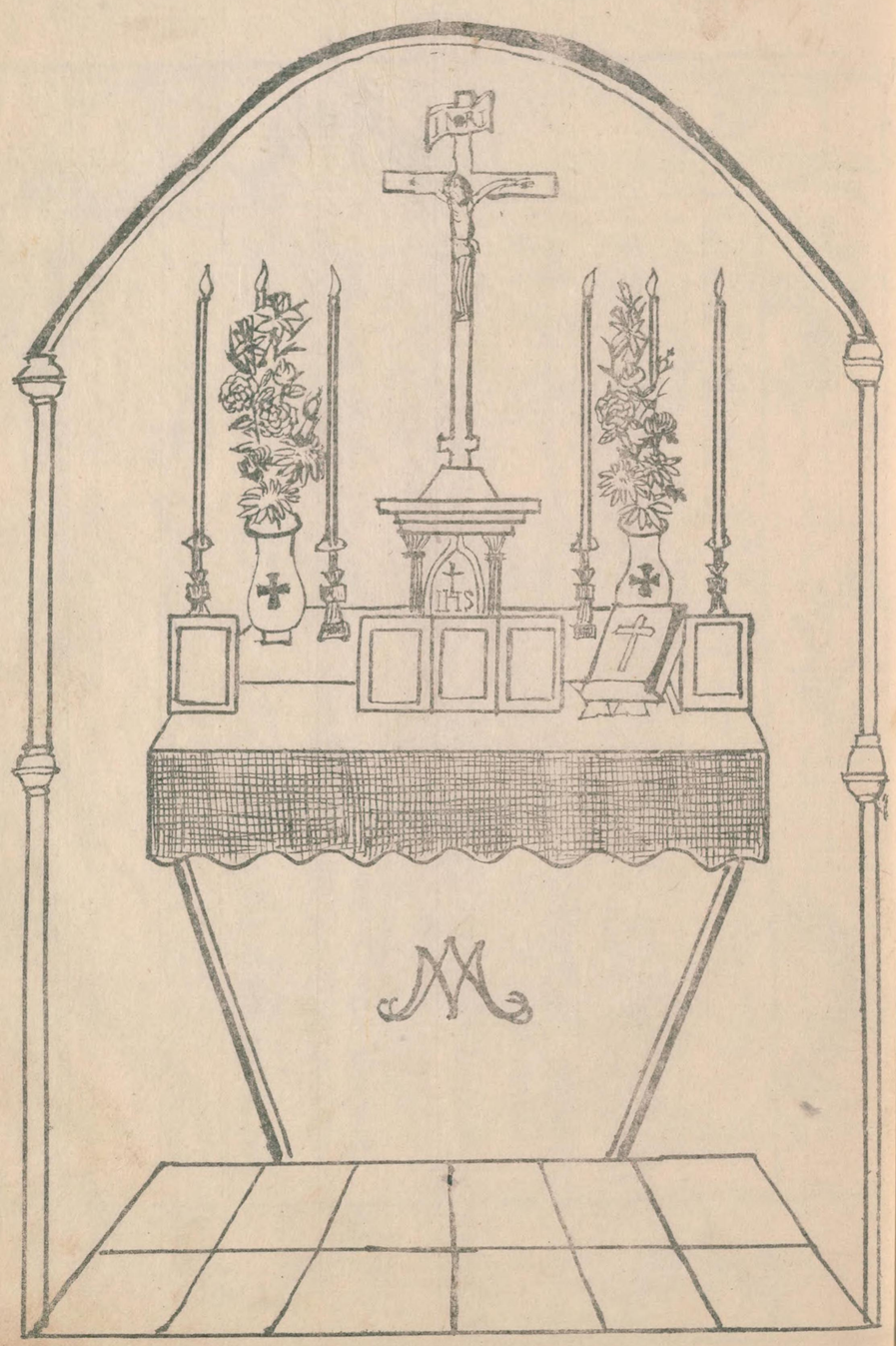
また　にんげんぎょうしょう　あがな　つぐな　ひにち　つく
全く人間萬障の贖ひに償ひ盡し
それ　おんおや　でうす　ちか　ささ
よりてまを御親天主に捧げ
ため　ごくりき　たの　ひざまづ　ため　ひざ　のち
奉る功力を頼み跪き拜む爲に膝乃
くうねん　ぢ　　　

高く差あげ持ち、一度浄めをなすすきりしと、ろまに於ける御ひとり子、吾等の御恩の為に、御こゝろにて、十字架に釘付けになされ給ひし時、御肉身かりすと、葡萄酒は御血と変化して、あれば誠に救ひ主、御ぶつしそのほかばんもつおまでも、むしんかぎりなき御ありさまを、かすみゝえ余を、ろまに於ける活ける人こそ、かゝる活苦患をえて、いのでなかなまざるものあらんや、扨又十字架の印

角なるハ世界の四方に像りまた浄まをまをせしハ、吾等人のまち々に世界中の罪を、ろまに於ける御子にて、十字架を負ひ給ひ、御血を流し給ひしものハ何時も明かあらたまん、これらの為ふし浄悪悪ひざなづきて、深く悔一念に書あらはし、これによりて責め給ふ我罪科を、洗ひて浄志の、つとむべくと励むべし、又ハ、

をろくさゝげる今一つの我を浄をせずす

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』　請求記号 WB4-2
ガラス使用



きりしとの一生に同様に洗ぱつよを洗ぐ
洗功力限りなきに因て天主父の
洗衣に依り活くの業績を保ち天上堺で
その宝座にある洗威勢あるより
仰ぐべき事にも多かれあんどれあと
まのにい聖しみまのにいはまりや
心を傷め神父尊きみかりすとの
為めとき拝むものは堺よへ伏をぐ同く
おづみまのとときのおぐしよ
△洗を授ずすきり

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

おらーよ
天の門をもり死活よたをかりたいけにへ歌
軍を我等を責るがゆくにあんちのふを
そへ御合力をなーぬくあめん
三位浦ーまん清一体の清るに不浄拳を
なれよごー何卒天守において我等に祓ふを
なるき命をそへ給へあめん

ーとさんたくるすのよにおいて世界を救ひ給ひ
ーによりてはーみやまのてむがみ参る我等が
とがをゆるーし給へありすを拝み参る
とうさのおーよ△一切人間を助け給うさんが
ためにくるすのよにて儀し給ふ清をぜず
きりーとその苦さ清画拝みをまあめん
○神父尊さゆかりーちやーよにさんたくるすの
清布をおゝ書き給ふよ これ清をぜずきり
ーと我等がために儀し給ふ更給ふ恵み多の西庵

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

頃さより蹙にゐるまでがーの透間もあらざれこも別而面さい浄土浄脳脇侍ぜんあーあんめさばらのごうーよ面の浄衣なり都てしお字恩を報ずる事ハ迚も及むざるの事ハなれバ責て白此お祝を覚へ拝みて後悔を記し強き心を保ち浮世の業苑を棄て薫りを守り愚忍を去しー若事を勤め浄大切の心をおこすべしー此時を逃すべきおらしよ△いのた我君ぜずすにも心を柳我ハ浄牙より

俄り生さんしーのみなぐび浄牙の浄救ひをうけ今生において安に日を送り後生にあらざらん安楽を重むる何をか君の浄恩にあらざらん非ともて浄牙ぜの天主真の浄人にて主して浄哀憐ハ限りなし浄仁慈ハ窮りなし人るにありなぐらもまぐ人るにあらなぐら都白悪逆限りなく無道邪のぜさい何るのぞや終にハ我ぉしたために死し給ふ事さへ終にハ我ぉしたために死し給ふ綾まバうれも浄大切の心をを失ひび命を

さんぜをうるべきものと参へまさまこれによりて
何卒汚名のがるさを以て一命をもうしおくり給ひ洪恩のまんがを以て浄大切をわすれず
報じさせ給へくと混もうに祈りあんぬ

○神父合掌默念　是汚
しを洗あてまへ汚垢時に離もて即時に地
中にあるがごとくに隆ふせ玉へ
聖人を触め天し快楽を許し給へとねがふるがごとくなりよに
これによりて神父ハ時ふ

苦しむあにまを速かにねがひあげ給へ
なり祈むものもと心を合せて同じく祈べし是即通功なりおら
ゑべし是即通功さんとすることよ△いつたい天主ハ汚慈悲のよりふるがごとくに
りよくあにまを速うに安楽の雲に休めそ
まふ給へあめん△天にまします一ぺんかよべし
△がくをみちく一ぺんかよべし
○神父胸を叩き奉りて頭を出して汚を洗ひ死去し時種々の天宝地恠あるを

みて諸人後悔を起して泣〳〵罪を拜むものゝ爲後悔をして拜むものゝ爲又死したる人〳〵のために又死したる人〳〵のためにも祭ものをもあてまつるべし

○神父あるを出して天にをすのあらんよを頒ち我等人類の肉身に附てもあにまに食ても今生後生ともに入用ある事那ひ事べきハ則天にまします主ゼズスのおらんよに含めたまへ七ヶ條にあるなり

尊さゆかり〳〵ちやこ〳〵露玉のよにをせバ如何ずんばあるべからず頒ゆるとゝのへども時において心を靜めれ共爲をみて天に在すのあらんよを念ず

○神父おすうやをこゝろに割祭ふ　是洗手

淨十字架〳〵にて頒御ふ後淨あにまをまたよみがへる蘇生らせ給ふ天〳〵祭ふなり

されハ天主人間に降下くだされ二万に業福を全
あらわ
顕ありがたき御恩を
蒙むるものなるさにハ我ホあにまと肉分と離れ
るときにおよびてひかさを持ぎしバ件のこと
ふに物をあたへ給ふものを拝みなるべし
叶ふべし、このゆへに頼母しき中に勧めて
三ツの数に賭ちがふさをお辞ひて常に
学ん峡を守ーおくべしーと矣つるべし

○神父おすちやのふく割うるをかりその中に
入くあふーよーふるよ　元清を三月月
清浦清矛る達よ取ふ
ど和ふぎて御当のゆ中にます
たる清稼を祝して御
ふれまふぐふ課科を捨ふ
清をこせに離ぎるよ
しよ△清を我ホ課人をあふをみふく
○神父胸をゆさてふさゆかりふやを

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

頌誦よ　見ゆるさゆかりしちやいあにまの
やなぎのいとなる妙業の妙
歌對する罪科の禁物を
服すべし　依て神父も
胸を打そいつどもに
恐まて今又後悔を
ちやを更ゆかりしちやを取りたてまつるに
ひとつまことにうける事にて

あにまかゝだ共に規を守りて更ること二つには
神頌とて贖の望みを
ぞとゝもあにまにのこ感通するの三つには
徒頌とて亡たる人の
ゐん時なく外向にてかくぶにのこ
ゐこと四つに門貧頌と神頌とを勧むべし
徒頌いろ〳〵あるべし即ち重罪となる也
○神父かりすを仕舞
たに移りて一章を読誦して辛向きを

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

をべきなり

○神父恩謝のおらしょを誦へゆゑ　皆浄みを
し始より終りまでの浄罪かと文るさゆかりしちや
拵りゐる事浄洪恩の為ざるうなく
拝むもの能為へて神父と心を合せ深く謝
しをるべきなり

○神父方を觸へしてぞみぬすあびすこんと
唱へゆゑ　皆拝むものなるさゆかりしちや
拵りゐるをいちひゐ辞こ為む為今生に

してぞみぬすおびすこんと唱へ始ゆゑ
皆浄うえ来しのでいの国を浄救のために
出現ましまして終に悪しき世界に終りよといへども
天降らせ給ふときハ又しのでいの国に現れ
移すより終まで拝むものの浄き恋慕
よりて聖さ浄教を信じ助かりの道を為へ
よいか心を堅固にして浄祝明し覚悟を

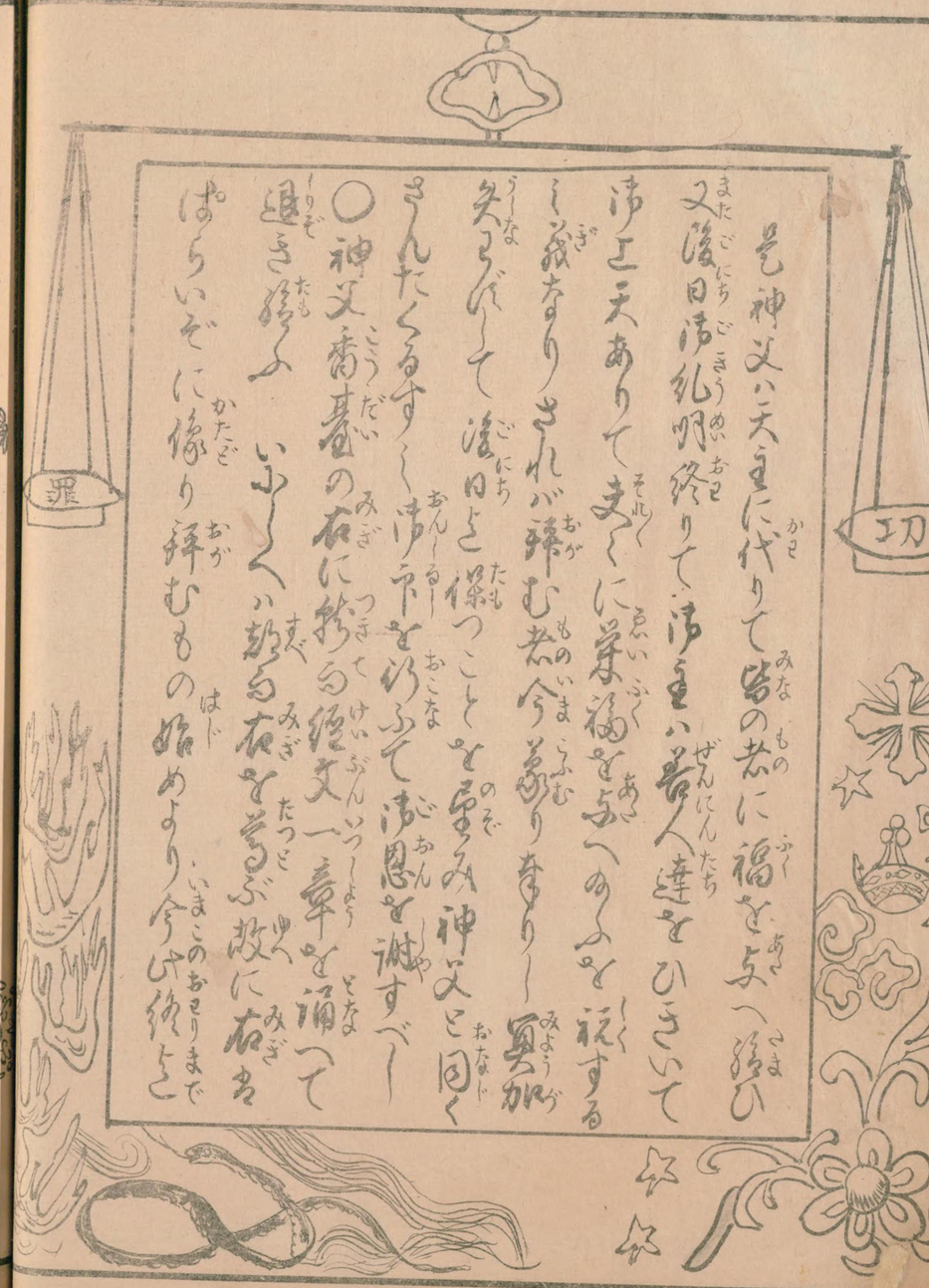
国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

おおて能清拭を守りまつり浄肉体を背
うずーて永遠清一有にあれかしと祈
奉むべー

○神父まず拝む者に向ていそみさえすて
心高ありていろを天主に潜て後ほしおそれ
より行ふもの退くべーという禅なり是に因て
拝むものの心附立去べきなれどもそう粗忽
多かるべさによりてむを静めて浄みき中の

ねんりよ
念慮を顧みて罪をひきたてまつり
まい哉を見捨たまざるほどおん
あんじよと共に浄堂にありて拝むるを
手数何とぞ後日清祝の時に
（るの）苦患を遁しぱーいそに導きたまへ
あめん

○神父拝む者に向ひさんたくるすの
なすて奉る叶ひ給ふ天主をぱてるひりよすひり
どさんと栄福を汝等に与へ給へがーと唱ふ



元神又は天主に代りて皆の者に福を与へ給ひ
又後日活礼明終りて活
活上天ありてまく〳〵に栄福を与へのみを祝する
し義なりされば拝むべき今参りー冥加
矣うべくして後日よ係ることをのぞみ神父と同く
さんたくるすー活恩を謝すべー
○神父斎壇の右に就き白絵文一章を誦て
退き給へ　いふくいぞに像り拝むものはめより今ゟ後と

天主の秘蹟を合みー玉ふ活恩を拝みその
活恩因によりてぱらいぞに像り拝むべき
事ー也ー謝ー給へりてこゝをずべきあらしよ
△いのにぱをせずすぎり我活みさに逢ひ
給ふるきおをちやのうちにをす活恩を拝み
おのとの仇びう是にーかんや免ればや世に
おいて全く御授を守りぱらいぞのをとず
させ給へと伏而願ひ奉る阿めん
○神父よをゟて後斂かに退散すべー

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2
ガラス使用

彌撒拜禮式　終

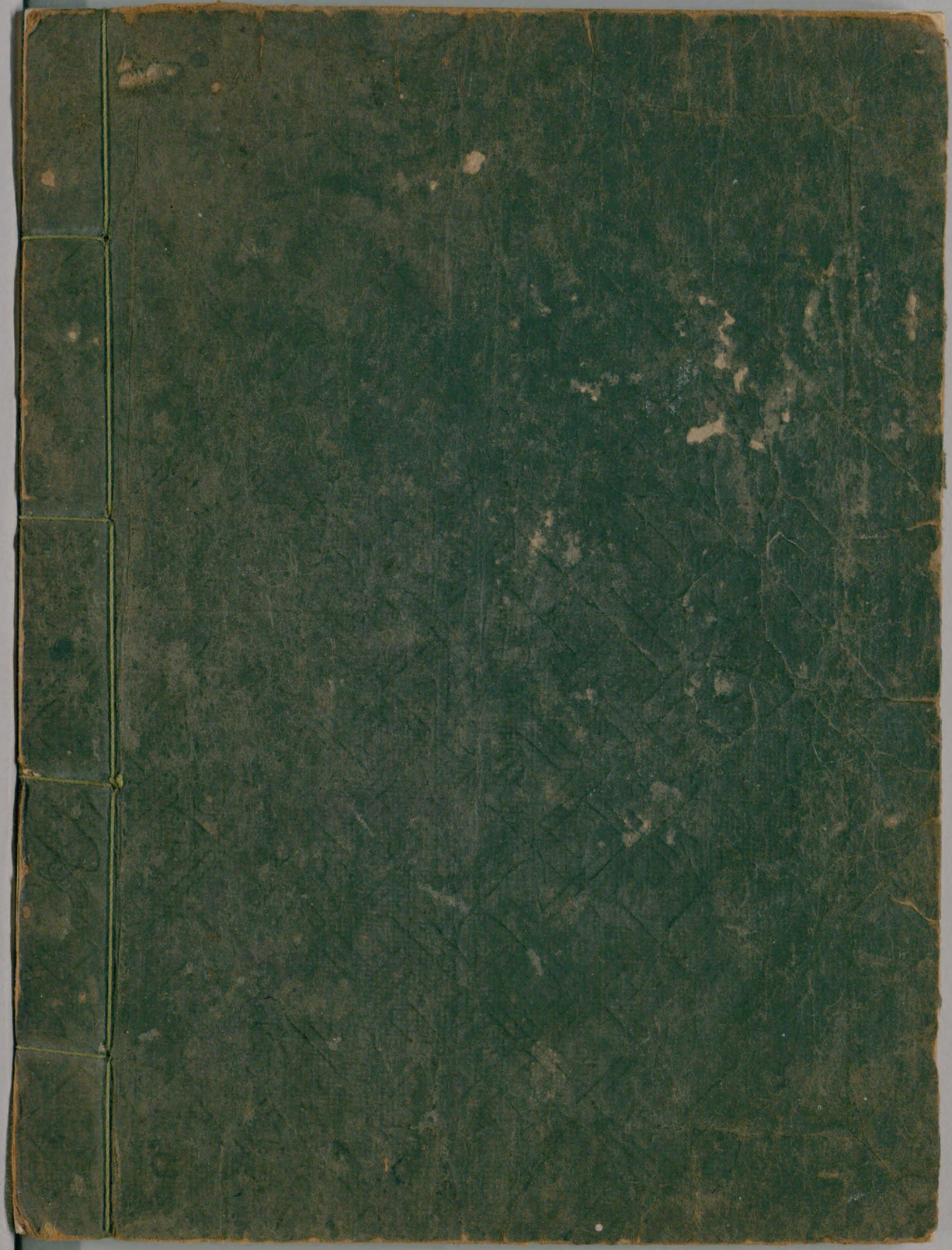
国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2

ガラス使用

大正八年 旨 甘日 初撃 休

国立国会図書館　タイトル『弥撒拝礼式』 請求記号 WB4-2

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『弥撒拝礼式』　請求記号 WB4-2

ガラス使用